

## 省エネ型バケット

# 新興国へ

### 丸栄製作所

建設機械部品メーカーの丸栄製作所（射水市鷲塚、今牧繁社長）は、コマツと省エネ型バケットを共同開発した。従来品の形状を改良し、燃費や耐久性などを向上させたのが特徴で、国内をはじめ、インフラ整備や鉱山開発が活発な新興国に市場投入する。特に需要の拡大が見込まれる海外向けには、丸栄製作所が出資して、インドネシアや中国での生産拠点整備も進めており、バケットの付属品とともに販路拡大を目指す。

中国は5〜10月に開かれる上海万博を控え、インフラ整備を急いでいるほか、アジアや中東、アフリカでは鉱山開発が加速している。一昨年はリーマン・ショック以降、建機の新車需要は伸び悩んでいるものの、消耗品である部品の需要は堅調。建機の稼働率も高いことから、丸栄製作所とコマツは新しい部品の投入で顧客獲得を狙う。

国内向けは丸栄製作所が製造し、海外向けは共同出資で生産拠点を設ける。インドネシアでは昨年6月から工場稼働し、鉱山開発向け大型

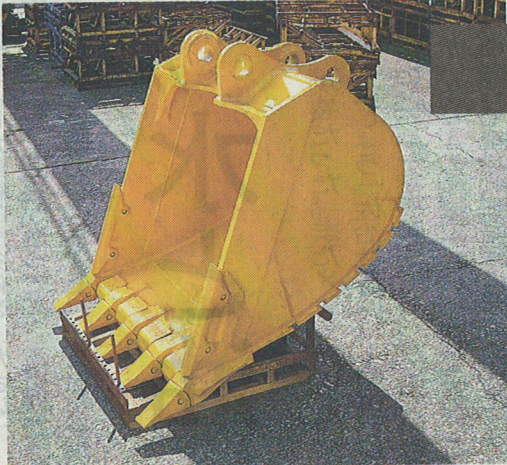
## コマツと共同開発

省エネ型バケットは油圧シヨベルのアーム部分に装着し、碎石や掘削に使用する。従来品は底が角張っており、地面から岩や土を掘り出す際の抵抗が大きかった。これを流線型に改良したことで、地面への出し入れが滑らかになり、燃費が5〜11%改善、耐摩耗性も30%以上アップした。丸栄製作所は中・大型バケット生産に実績とノウハウを持っていることから、コマツが共同開発の協力先に選んだ。

建機用のバケットなどを製造。将来的には今回開発した省エネ型バケットの生産も検討していく。

10月には中国でも、中型建機用バケットの生産拠点が稼働する予定。丸栄製作所は両拠点に独自技術を提供する。

省エネ型バケットは、近く国内市場に投入し、6月ごろに中国、10月ごろに東南アジアで販売開始する予定。3年後の年間売上高は、国内で2億円、中国で8億円を目指す。



丸栄製作所とコマツが共同開発した省エネ型バケット